

# 治らないということの問題における医学モデルと社会モデルの違い

## —ALSの人の生活から

Contact : Yui Hasegawa  
Email : quarterback.yui@gmail.com

長谷川 唯(はせがわ ゆい) 学術振興会 / 京都府立大学

### 背景・問題意識 “治療と社会モデル”

#### 障害学

障害者を治療の対象とみなす従来の考え方を医学モデルと位置づけて批判し、社会モデルを提案した。しかし、医療を拒絶するだけでは社会モデルは尊厳死を肯定することになる。障害者は、それをよしとしてこなかった社会モデルは“治すこと”“治療”をめぐる問題を医学モデルとの優位性の観点から十分に考察できないでいる。

#### ALSの人

病人でもあり、その症状によっては身体に障害を持つこともある。その生活には医療を必要とする。

こうした人にとって医療がどういうものであり、社会モデルはどうとらえるのだろうか。

#### 目的と方法

社会モデルが治療や医療をどのように捉えられるのか、ALSの人の生活から探究する。

ALSの人の生活場面における“医療”の言説を分析する。

治らないということの問題における医学モデルと社会モデルの違いを検討する。

#### 恣意的に使われる「医療」という言葉

吸引や胃ろうなどの医療的ケアはできません。

介助者・介護事業所 介助を断る理由

#### 医療

医療者生活や他の者による医療行為を制限する根拠

病院・施設 個別ケアを断る理由

その人の生活ではなく、その症状や状態からケアや生活を判断していく。

医療的な事項を優先するので、それはできません。

その人を支配し、生活をコントロールするものとして「医療」が使われている

### 治らないということ

#### ALS 原因不明の不治の病

治らないからといって、医療が必要ないわけではない。

日々の身体の状態を維持するために医療が必要。

その生活には、医療と福祉の両面からのサポートが必要。

ALSの人たちは、病者であり障害者である。

#### ALSの人にとっての医療

薬の処方

特定疾患の手続き  
(制度利用の手続き)

カニューレ交換

生活する上で必要

人工呼吸器の設定・管理

医療的ケアの指導

吸引の指示

医療にしかできないことがたくさんある。

ただし、ALSの人にとっては、普遍的に医療とカテゴライズできるかどうかは問題ではない。

ALSの人たちが「医療」を実感してしまう場合、多くは医療のコントロール下に置かれているという実感。

#### 人工呼吸器は治療なのか？

医療者による装着やその設定や管理などを考えれば、「治療」「医療」である。

だが、ALSの人が管理し、生活すれば人工呼吸器が生活の道具となっていく。

現状では人工呼吸器をつけたことで外出やその生活が制限されている。

生活の道具としての実感や役割が感じられない。



人工呼吸器が「治療」「医療」のままである限り、生存を否定する根拠として作用し、ひいては尊厳死という最悪の選択肢への道を開いてしまう。

#### 生存のための社会モデルと医学モデルの違い

生存のための医療

医学モデル

社会モデル

同じ考えであり優位性は認められない

医学モデルにおける“医療”という言葉の意味作用

医療者の特権的地位の保持、医療者にしかできない排他的領域に他者を踏み込ませないこと、また他の介助者にとっては介助を断る理由として作用していた。

その点においては、生活に“医療”を介在させる限り、医療者に生活の主導権を握られることになる。

ALSの人の生活では、自身が生活の主導権を握る限りにおいて、医療機器が“医療”のものではなく、生活の道具としての役割を持つ。

誰がその“医療”の主導権を握るかに、医学モデルと社会モデルの違いがある。

治らないことが前提でも、医療や治療が生活の一部として、生きることに迷わないようにうまく生きられる手だてとして機能しなければならない。